

〇〇2 弥生文化と小国の分立①②

●弥生文化

- 01 弥生文化の特色は、石器に加えて〔 〕の使用が始まったこと、〔 稲作 〕の開始、〔 土器 〕の使用の3つである。
- 02 北海道では独自の〔 文化 〕が、沖縄では〔 文化 〕が栄えていた。
- 03 東京都の弥生町遺跡〔 貝塚 〕で発見された土器がもとで、〔 土器 〕と命名された。
- 04 金属器のうち、〔 〕は銅鐸、銅剣、銅矛など祭器として使われ、〔 〕は鉄製工具や武器などの実用器として用いられた。この2つはほぼ同時に日本に伝わった。
- 05 水稲稲作には、弥生時代前期は、種を直接蒔く〔 〕で、弥生時代中後期からは田植えが始まった。
- 06 水田には、低湿地に営まれ生産性の低い〔 〕と、灌漑・排水を繰り返すことで生産性が高くなる〔 〕とがあった。
- 07 農具は〔 製 〕が主で、後には刃先が鉄製の農具も現れた。
- 08 収穫には磨製石器の〔 〕が用いられたが、やがて鉄鎌に代わった。脱穀は主に〔 〕・〔 〕が用いられた。
- 09 本格的な水田や貯蔵用建築の〔 〕の存在は、1943年に静岡県で発掘が始まった〔 遺跡 〕で確認された。
- 10 弥生時代には戦争もはじまったので、防御を重視した〔 集落 〕が発達した。佐賀県の〔 遺跡 〕や、奈良県の〔 遺跡 〕が最大級である。また、不便な山の上につくられた逃げ城的な性格と考えられる〔 集落 〕も瀬戸内海中心にみられる。その代表的な遺跡は〔 遺跡 〕である。

- 01 九州北部では、朝鮮半島と共通する〔 墓 〕や、2つの甕を棺に利用した〔 墓 〕が、〔 地方 〕では方形周溝墓が広くいとなまれた。
- 02 弥生時代の一般的な埋葬法は、縄文時代屈葬に変わって〔 〕が一般的となった。

●小国の分立

- 03 中国の正史〔 〕によれば、紀元前後の日本列島は100余りの国に分かれていて、定期的に〔 郡 〕に使者を送っていたという。
- 04〔 〕によれば、57年、倭の〔 〕の王が朝貢の使者を送り、〔 帝 〕から印綬を与えられたという。
- 05 この金印は、江戸時代に〔 島 〕で発見された。
- 06 紀元107年には、倭王が〔 〕160人を献上したことが記されている。
- 07〔 〕によれば、〔 〕の女王卑弥呼を盟主とする〔 国余り 〕の小国家連合が成立していた。卑弥呼は〔 呪術 〕を背景に人々を統率したが、実際の政治は男弟に任せていたという。
- 08〔 〕年、卑弥呼は〔 郡 〕を経由して魏の皇帝に使者を送り、〔 〕の称号を与えられた。
- 09 邪馬台国論争とは、〔 説 〕と〔 説 〕があり、〔 説 〕を取るならば、3世紀前半には日本に統一国家が生まれていたことになる。
- 10 卑弥呼が没し、男王が立つと小国連合は乱れた。そこで卑弥呼の一族の少女である〔 〕が擁立されると、国はふたたび治まったという。この女王は266年、中国の王朝の〔 〕に使者を送った。